

今から 77 年前、太平洋戦争末期の日本軍の敗戦が迫る中、昭和 19 年 11 月 24 日、アメリカ軍マリアナ基地を飛び立った B 29 約 70 機による東京初空襲以来、日本各地の主要都市は空襲による甚大な被害を被ることになった。昭和 20 年 3 月 10 日未明の東京大空襲では 334 機の B 29 による夜間低空焼夷弾攻撃で大被害を受けた。

そして同年 5 月 29 日（二番茶の時期）横浜に空襲攻撃を仕掛けるため、B 29 爆撃機が御前崎沖より富士山を目標として、現在の川根本町、合併前の旧上川根村千頭、旧東川根村小長井の上空を数えきれないほどの B 29 爆撃機が低空飛行してきた。これ以上の被害を出さないために名古屋の飛行基地から、土山茂夫兵長の操縦する零式艦上戦闘機（ゼロ戦）が離陸した。

果敢に B 29 編隊に対し攻撃を加えるも、その戦闘力の差は大きく、万策尽きた。

土山兵長は玉砕覚悟の体当たりを B 29 編隊の最後尾に敢行した。一瞬閃光が走り、B 29 の胴体は真っ二つ、火の玉となり地上に落下。その時ハッチが壊れて開き、大量の焼夷弾と共に、二人がパラシュートで脱出した。少年兵飛行士はその後捕らえられ、憲兵が浜松に連行。その後の二人の消息は不明。

日本の飛行機（ゼロ戦）は青部の山中に墜落戦死。また大量の焼夷弾は、千頭の清水館、森平の山本宅、小長井の芹澤宅、数軒の家に落下し、火災発生。のどかな村をパニックに陥れた。

墜落した機体の一部は、森平の山中（コックピット）、エンジン部分は学校の校庭、胴体は平栗の山中、付近の山林には機体が散乱した状況。それでも親切な住民達は、墜落し亡くなられた搭乗員数名の遺体を丁寧に扱い、現在の忠魂塔の片隅に供養し、冥福をお祈りしました。その後、遺骨は掘り起こしてアメリカ軍が持ち帰ったとのことでした。

その後、不幸な出来事が小学六年生絵画の時間に襲い掛かる。それは、好奇心で少年達数名が、万年筆の様な不発弾を扱っている最中、突如大音響と共に不発弾が炸裂。一人の少年は眉間に穴があき即死の状態。もう一人は片目に破片が突き刺さり失明。数名は爆風と共に土平よりころげ落ち、大怪我したものの、命には別条なしとのこと。この様な事件も戦争の犠牲者なのかもしれません。